



HPを  
チェック

他のニュースも、ホームページで随時更新中!

## 最優秀賞に東和町の菅野さん 全農いわてりんごコンテストで快挙

菅野裕也さん(花巻市東和町)は、JA全農いわて主催「2025いわて純情りんごコンテスト」で最優秀賞(農林水産大臣賞)に輝きました。

3月31日には高橋組合長に受賞を報告。「とてもうれしく思っている。果樹部会には若手グループがあり、何でも相談できる環境がありがたい」と話し、高橋組合長も「日頃の努力と熱心な研究の賜物」と称えました。



高橋組合長(左)に笑顔で受賞を報告する菅野さん

## 天然冷蔵庫で鮮度・品質維持 雪室に雪入れ作業

西和賀地域営農グループは3月5日、農産物貯蔵庫(西和賀町沢内)の雪室に雪を詰める作業を行いました。

同日は、町の作業員5人が除雪車を使用して雪を室内に隙間なく吹き付けながら詰めていきました。雪冷式の貯蔵庫は、冷蔵庫に比べ温度変化が少なく高湿度となるため、野菜や花の鮮度・品質を長期間維持できます。3月中旬から9月中旬まで農産物の貯蔵に使用されます。



雪を吹き付けながら雪室に詰めていく除雪機

## 西和賀リンドウ育苗スタート 手作業で種まき

西和賀花卉生産組合は3月11日と12日の2日間、西和賀町内の生産者3戸のハウスでリンドウの播種作業を行い、今年度の育苗をスタートしました。

南川信一さん(西和賀町沢内)のハウスでは、11人の作業員が割りばしの先に針を付けた手作りの器具を使用して、丁寧に播種作業を行いました。育苗を担当する南川さんは「温度・水管理に気を配り、良い苗を届けたい」と話しました。



手作業で丁寧に種をまく南川さん

## 仲間づくり強化へ 女性部が第16回通常総会を開催

女性部は3月19日、総合営農指導拠点センター(花巻市野田)で第18回通常総会を開き、令和7年度の事業報告や令和8年度の事業計画など3議案を承認しました。

昨年度は新部員加入歓迎奨励の初実施も後押しして73人の新加入があり、高橋美紀子部長は「魅力ある活動を続け、仲間の輪を広げている部員のみなさんに敬意を表する」と伝えました。



議事に先立ちあいさつする高橋部長

## 佐藤さんの牛が最優秀賞 第12回女性部枝肉研究会

肥育部会は3月12日、東京食肉市場で第12回女性部枝肉研究会を開きました。黒毛和種の肥育牛24頭が出品され、上物率は100%でした。最優秀賞には、佐藤宏子さん(花巻市太田)の出品牛(去勢・枝肉重量61.1kg・BMSナンバー12)が選ばれました。

同日は洗心館で褒賞授与式が行われ、佐藤さんは「日々の観察に取り組んだ成果が出た」と受賞を喜びました。



表彰額を受け取った受賞者と関係者の皆さん

## 健苗育成に向けて 今年最初の水稻指導会を開催

JA管内では3月中旬、令和8年度1回目の水稻指導会を管内各地で開催しました。令和7年度産米の経過や8年度産米の栽培管理について確認し、健苗育成に向けて意識統一をはかりました。

4月からは気温上昇が予想されることから、細菌病対策として温度と水管理を徹底することや、夏季の高温によって登熟が早まっていることを踏まえて移植日を決定するよう伝えました。



花巻市太田で開いた指導会の様子(3月13日)

## 1団体と5人を表彰

令和7年度産直あぜみち通常総会

産直あぜみちの会は3月24日、北上・みなみ・さくら・二子支店(北上市流通センター)で令和7年度通常総会を開き、生産・販売において優秀な成績を収めた生産者1団体と5人を表彰しました。

審査を担当した県中部農業改良普及センターの職員は「夏場の高温で出荷数量が減少する中、出荷数と販売額を維持し、産直の発展に大きく貢献いただいた」と受賞者を称えました。



表彰状を受け取る生産者

## 樹勢と作業効率の良い樹形作りを 剪定作業を実演

JAと県中部農業改良普及センターは3月27日、晴山昌晃さん(花巻市石鳥谷町)の園地で桃の剪定講習会を開きました。生産者など13人が参加し、剪定作業の実演を見学しながら生産性の高い樹形作りについて学びました。

講師を務めた同センターの職員は、若木と成木それぞれの剪定を実演し、樹勢や作業効率を考えて整枝を行うよう説明しました。



剪定を実演する県中部農業改良普及センターの職員